

学校評価計画

令和4年度 学校自己評価シート

福生市立福生第四小学校 校長 南方 孝之 印

学校教育目標																	
進んで学ぶ子 思いやりのある子 体をきたえてがんばる子																	
目指す学校像（ビジョン・ミッション）																	
学校は子どもたちが認められ、自分に自信をもち、明日への夢と希望を育むとこでなければなりません。「元氣いっぱい 笑顔あふれる みんなの学校」を合言葉に、確かな学力の定着と健やかな心と体の育成を目指します。保護者には、邁進してよかったですと思え、教育目標の実現に向けて保護者の協力が得られ、教職員と共に教育しようとする意識が得られる学校を目指します。そしてコミュニティ・スクールとして、地域とともに子どもたちの豊かな学校生活の実現を目指します。																	
【目指す学校像】			【目指す教師像】			【目指す児童像】			【その他 特記事項】								
①人とかかわりを大切に、思いやりのある子どもを育てる学校 ②学び合い、高め合う授業を通して、確かな学力を身に付ける学校 ③実践を通して、望ましい生活習慣を確立し、健やかな体をつくる学校 ④本物に出会うことで学ぶ意欲を高め、探究力と豊かな人間性を育てる学校 ⑤地域と連携を図り、地域から学び、地域に誇りをもつ子どもを育てる学校			①学校経営参画意識をもち、組織の一員として、学校教師 ②子どもの心に寄り添うことのできる人間性豊かな教師 ③“授業は教師の命”と考へ、分かる楽しい授業を工夫 ④保護者・地域住民に信頼される教師 ⑤法の遵守、服務の厳正に努める教師			①知徳体の調和がとれ、生きる力を身に付けた子ども ②平和な社会の形成者として、心身が健康で人間性豊かな子ども ③主体的・積極的に学習や生活に取り組み、根気強くやり遂げ ④探究心と向上心をもち、学び続ける力をもつ子ども			コミュニティ・スクールとして、地域とともに歩む学校を目指す								
領域	三カ年経営目標	本年度経営目標	目標達成のための方策	取組指標（教職員の取組）	取組自己評価			成果指標（児童・生徒等の改善・成果）	成果自己評価			分析・改善策					
					当初	中期	年間		評語	当初	中期		年間	評語			
領域例：学力向上策・生活・進路指導策・人材育成策・研究研修策・学校運営策・特色ある学校づくり策等	豊かな心の育成	好ましい人間関係を構築し、思いやりのある児童の育成を目指した学校	人とかかわりを大切に、思いやりのある子どもを育てる学校	道徳の授業を系統的・計画的に実施し、自他を大切にする児童を育てる。	・言語活動の工夫による授業改善 ・議論し、考へを深める道徳授業 ・実践的態度につながる授業づくり	目標達成	70	80	90	B	・学校評価アンケートの結果 ・ハッピータイム（縦割り班活動）の実践状況	目標達成	70	80	90	A	「思いやりのある行動がとれているか？」の問いに対し、9割を超える児童が肯定的評価である。同様に、「人とかかわりを大切に、思いやりのある子どもを育てる学校か？」の問いに対し、9割を超える保護者が肯定的な評価である。 いじめ未解決件数は0件を達成。アンケートから、児童は学校行事や体験学習を楽しみにしていることが明らかである。次年度も引き続き、新たな教育活動の在り方を模索しながら、体験活動等の充実を図っていく。 クラスごとに月目標やふれあい月間の目標を決め、年間を通して取り組むことができた。挨拶に関する児童の自己評価では、肯定的評価が9割を下回るなど、課題が残る。学校や地域で気持ちの良い挨拶ができるよう、引き続き指導し
				人とかかわりを通して好ましい人間関係を構築し、人権を意識した行動習慣の徹底を図る。	・年4回のふれあい月間の活用 ・外部講師等による体験授業の充実 ・地域人材を活用したクラブ活動	目標達成	70	80	90	A	・学校評価アンケートの結果 ・体験的な活動の実践状況 ・いじめ件数	目標達成	70	80	90	A	
				基本的な生活習慣を身に付けさせ、規範意識と社会に貢献しようとする精神の高揚に努める。	・あいさつや言葉遣いの指導 ・児童委員会によるあいさつ運動 ・ふっさつ子生活スタンダードの徹底	目標達成	70	80	90	B	・学校評価アンケートの結果 ・あいさつ運動への取組み状況	目標達成	70	80	90	B	
				確かな学力の定着を目指し、基本的な事柄を繰り返し丁寧に指導する。	・休み時間や放課後の個別指導の充実 ・タブレットを活用したドリル学習 ・読書活動の充実	目標達成	70	80	90	A	・学力テストの正答率 ・東京ベネッセドリルの到達度 ・タブレットによる学習状況	目標達成	70	80	90	B	
学力向上	確かな学力を身に付け、主体的に学ぶ児童の育成を目指した学校	学び合い、高め合う授業を通して、確かな学力を身に付ける学校	主体的・対話的で深い学びの実現、思考力・判断力・表現力の育成を図る。	・ICTを効果的に活用した授業改善 ・校内研究による授業改善 ・ふっさつ子学習スタンダードの徹底	目標達成	70	80	90	A	・学校評価アンケートの結果 ・授業への児童の取組状況	目標達成	70	80	90	B	話し合いによる発表や思考ツールを用いた話し合い活動等、校内研究の取組を通して、児童の思考力・表現力が向上している。大型テレビやタブレット等、ICT機器が日常的に活用されている。	
			家庭と連携し、毎日の家庭学習の習慣化を図る。	・「学年×10分」の家庭学習の定着 ・子ども自身が選択できる家庭学習 ・タブレットを活用したドリル学習	目標達成	70	80	90	A	・学校評価アンケートの結果 ・ミライシードの活用状況 ・自主学習ノート等成果物	目標達成	70	80	90	B	自主学習ノート等、選択した課題に取り組む家庭学習を全学年で行うことで、児童の学習意欲が向上した。家庭学習におけるタブレット活用とともに、読書習慣の定着も目指していく。	
			児童の体力の向上を目指し、持久走週間や縄跳び週間を再開する。	・持久走週間の取組（12月） ・縄跳び週間の取組（1月） ・カードの活用	目標達成	70	80	90	B	・休み時間の過ごし方 ・カードの取組み状況	目標達成	70	80	90	A	計画通り、持久走週間と縄跳び週間を実施することができた。密を避けるため、曜日ごとに、3学年ずつ参加を指定。そのため、体調不良の児童を除き、児童の参加状況はほぼ100%を達成。	
体力の向上	進んで身体を鍛え、自己の健康の保持増進に努める児童の育成を目指した学校	自らを鍛え進んで健康な体づくりをする児童の育成を目指す学校	走力や投げの力の向上を目指し、体育授業の改善を図る。	・体力測定の結果分析 ・体育授業の授業改善	目標達成	70	80	90	B	・体力測定の結果 ・児童の体育の授業への取組状況 ・持久走や縄跳びの参加状況	目標達成	70	80	90	B	引き続き体育の授業改善を図り、体力の向上を図っていく。次年度の運動会では団体競技を復活するなど、児童の意欲向上につなげたい。	
			児童の危機回避能力の向上を目指し、安全教育プログラム等の活用を図る。	・地域安全マップの作成（3年） ・総合防災訓練の実施（10月） ・不審者対応訓練の実施（1月）	目標達成	70	85	90	A	・避難訓練等への児童の取組状況 ・校内で起きるけがの状況 ・コロナの感染状況	目標達成	70	85	90	A	計画的に安全教育に取り組んでいく。また、コロナの感染予防を継続して行うとともに、インターネットの適切な利用について、家庭と協力しながら情報モラル教育を推進する。	
特色ある学校づくり	児童や地域の実態を基盤に、小規模校のよさを生かす教育活動を創造する学校	地域と連携を図り、地域から学び、地域に誇りをもつ子どもを育てる学校	コロナで中断している体験活動を再開する。	・教員とCS委員との意見交換 ・自然体験活動の充実	目標達成	70	85	90	A	・学校評価アンケートの結果 ・体験活動への児童の取組状況	目標達成	70	85	90	A	季節ごとの自然体験や創作体験、低学年の茶室教室等、自然体験活動や伝統文化理解教育を再開することができた。今後は、持続可能な体験活動として、指導計画上に位置付けていくことが課題である。	
			保護者や地域の人材を活用した新たな実践を開発する。	・地域を活用した着衣水泳 ・補習教室における高校生の支援依頼	目標達成	70	80	90	A	・学校評価アンケートの結果 ・活動への児童の取組状況	目標達成	70	80	90	A	地域のスイミングスクールを利用した着衣水泳、サマースクールにおける高校生の見守り等、新たな実践を開発することができた。今後は、国際交流を再開させたい。	
			保護者・地域と連携した学校行事や地域行事を推進する。	・学校行事への支援依頼 ・CS委員会及びPTAと連携した活動 ・学校行事等の広報活動	目標達成	80	85	90	A	・学校評価アンケートの結果 ・保護者の参加状況	目標達成	80	85	80	A	学習発表会や子供を笑顔にするプロジェクトでは、PTAやCS委員のご協力のおかげで実施することができた。子どもたちの豊かな学校生活の実現を目指し、今後も保護者・地域と連携を図っていきたい。	